たんぽぽ食べて

八兎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
たんぽぽ食べて

【Ｎコード】
Ｎ５６９５Ｖ

【作者名】
八兎

【あらすじ】
谷山さんの名曲「たんぽぽ食べて」をイメージとしたホラー小説。
気持ち悪い話を書こうとして、あんまり恐くなくなった話です。
旅の男が訪れた小さな町で遭遇した小さな出来事。

（前書き）

グロい話が書きたかったけど、ちっとも怖くなくなった肩透かしな話です。
でも、痛い表現はちょびっと出てくるので苦手な方はご遠慮ください。

この街には昔から悪い噂があった。
誰も口にしたがらない悪い噂があった。
やがて時が流れて人々は噂を忘れた。
やがて時が流れて噂は誰も知らない噂になった。
誰も知らない噂はどんよりと街にたちこめアスファルトに染み込んだ。
噂をいっぱいに吸い込んだアスファルト道路のあちらこちらからある日突然いっせいに芽をふきだしたものがある。

作詞　谷山浩子　『たんぽぽ食べて』より

「ねえ。貴方、この街は初めてでしょう？」
女が笑った。
女は私よりいくつか年下、２０代前半のように見えた。
艶やかな飴色の髪を腰まで伸ばした美しい女だ。
私は美しいと形容する人間を初めてみた。
そして、美しいモノを恐ろしいと言っていた友人の言葉を思い出した。
「一目でわかったわ、だって、貴方にタンポポはついてないもの」
とても、楽しそうに女は笑った。
嬉しくて、楽しくてしかたないと女は可愛らしく笑った。
女だけではない、この街では老いも若いも男も女も関係なく、皆が笑顔だった。
皆一様に、心から嬉しくて、楽しくてしかたないという笑顔だ。
「この街はタンポポの街よ。貴方はいい男だから、私のタンポポをあげるわ、だから、そこの喫茶店にいらしてね。待っているわ」

女の蝋のように白く細い指が赤い屋根の可愛らしい家を指した。
小さな看板にカフェとコーヒーカップが小さく描かれている絵本に出てきそうな喫茶店だ。
「また会いましょう、お待ちしてます」
女と別れたあと、私は広場へ向かった。
目的は特になく、ただの散歩のようなものだ。
行く道にはアスファルトのひび割れが多くあって、たんぽぽが生い茂っていた。
アカ、アオ、クロ。
今まで見たことのない色のタンポポが鮮やかに咲き誇り、他の植物を圧倒していた。息をのむ、美しさと恐ろしさがそこにあった。
通る道のあちらこちらにさまざまな色のたんぽぽを見たが、不思議と黄色のたんぽぽは見かけなかった。

「これが私のタンポポよ。さあ、召し上がれ」
街を回り、女が言っていた喫茶店へ入った私を迎えてくれたのは、エプロンを纏った彼女だった。
出されたのはサラダとコーヒー、そして、キツネ色のトースト、変わったところはない。
しいて言うなら、サラダに使われている葉物がレタスだけではなく、みつばや水菜など種類が多いところだろうか。
「美味しいわよ、残さず食べてね」
笑顔と言う表情の固定された美しい顔が私を覗く。
「ありがとう」
そう言って私はフォークを手に取る。
長い旅の中でタダ飯はありがたい。
私は頭に響く警鐘を無視して、女と向かい合って、食事に手をつけた。

少し苦みのあるサラダにさっぱりとしたレモンのドレッシングがよく合い、素直に美味いと思う。
女は何も話さない、食器のあたる音と咀嚼音が店内に流れる。
何かＢＧＭでもあれば、この気まずい雰囲気をごまかせるだろうに。
無言の食事が半分も過ぎた時、吐き気を感じ立ち上がった。
床に倒れる。
まわる景色、女の表情は動かない。
ぶつん。
音は身体から聞こえた。
瞼の裏で何かがうごめいている、眼球が勝手にぐるぐる動くのがわかる。
中から何かが突き破ろうとしている。
だけど、痛みがないことが余計に恐ろしい。
プチブチと小さな音が耳の奥で鳴りつづけて、自分の中で何かが蠢いている、ゆっくり正気を少しづつ削られていく。
「とてもきれいよ。貴方の赤いたんぽぽ」
女は私の頭を持ち上げて、うれしそうにほほ笑んだ。
それがどうしようもなくおソ、ロし

（後書き）

「たんぽぽ食べて」は名曲ですので、是非聞いてみてください。
あと、乾燥待ってます。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5695v/

たんぽぽ食べて

2011年10月7日01時16分発行